

昭和 41 年(1966)にフジテレビで放送された連続テレビドラマ『若者たち』の主題歌として作曲されたこの作品について、勝は次のようにいっています。

「音楽は作ろうと思ってできるものじゃない。藤田敏雄の詞  
—「君の行く道は、果てしなく遠い、だのになぜ、歯をくいしばり、君は行くのか、そんなにしてまで」—

をもらったのが、六十年安保闘争(※67)の前後、学生運動がピークを迎えていた頃でした。

※67 六十年安保闘争

にちべいあんぜんほしょうじょうやくかくいてい とうそう  
日米安全保障条約改定反対の闘争。

ただ、なぜかすーっとメロディーが浮かんできたんです。その時紙を持っていなかったので、タバコの箱の裏に略譜(※68)を書いたんです。5分もかからなかった。」



わかもの えいがよう  
『若者たち』映画用のシナリオ

※68 りやくふ  
略譜

かんたん がくふ  
数字で表した簡単な楽譜。

この時、歌は作るものではなく、生まれるものだと初めて思  
いました。後に『若者たち』は映画化されています。

その他にも、流行歌(※69)をいくつか作っていますが歌が生  
まれるにはその時代の背景がありました。

石原裕次郎の『狂った果実』は太陽族(※70)ブーム。ブルー  
ベルシンガーズの『昭和ブルース』は、学園紛争(※71)で挫折  
した学生のパロディー。由紀さおりの『恋文』は本当の日本  
語を守ろうと思い作ったと語っています。

#### ※69 流行歌

一時期広く世間に流布し、多くの人に好まれ歌われた歌。

#### ※70 太陽族

昭和30年(1955)石原慎太郎の小説「太陽の季節」から生まれた流行語。  
既成の秩序を無視して、無軌道な行動をする若者たちを言った。

#### ※71 学園紛争

政治闘争に加えて大学の管理運営や学費値上げなど学園問題を取り  
上げ、一般学生を巻き込む形で大学内における紛争。